

No 21 社会性の獲得は 家庭や地域でも小さな積み重ねから

社会性の基礎を身に付けるには(3)

このところ、以前に増して「子どもが変わった」という言葉を耳にします。さらに、子ども達の将来について危機感まで感じている方々も少なくありません。感情をコントロールすることが苦手など、社会性の欠如が言われていますが、考えられる大きな要因として、



遊びの文化が変わったこと（豊富な玩具により一つの遊びを共有する子どもが減った 遊びによって地域がつながることが減った）

核家族・少子化のため姉妹や祖父母など家族構成が変わったこと（教育力のある大家族の崩壊、育児援助などのサービス産業による子育ての変化）などが挙げられます。

本来、社会性は自然に身に付けるものと思われてきました。兄弟が大勢いる、祖父母も親戚も身近にいた、地域に出れば、子どもは同じ種類の遊びをし、互いに教え合っていた、大人社会も互いに手をとって助け合っていた。こういうことが、ここ30年程の間に一挙になくなってしまったのです。

では、現在、このような社会の中で、社会性は自然に身に付くものなのでしょうか。昔からの言葉に、「やって見せ、言ってみせて、させて見せ、ほめてやらずば人は動かじ」（山本五十六）という言葉があります。

他の人を見てまねる

他の人のしていることに注目し、どんな時にどうしたらよいのかを学ぶ、どうすると失敗するのかを学ぶことが今の子ども達には必要なのです。昔は、近所の少し上のお兄さんや多くの友達と遊ぶ中で、まねることができましたが、今は、子どもが会えるモデルは、教師か保護者か、わずかの友達しかいない訳です。まず、大人が**やってみせること、モデルを示すこと**が大切です。

させてみる

「言ってみせる」だけでなく、「**させてみる**」ことも必要です。塾などが優先で、子どもにお手伝い等をさせている家庭は少なくなりつつありますが、家庭の中の仕事（手伝い）はとても大事なことです。**様々なことを繰り返し経験すること**で、自然に生活技術を身に付けるものです。

よい結果を味わう

「ほめる」ことは、大人がただ単にほめることではなく、「振る舞ったことがとても快適だった」とか、「とても楽しい人間関係が味わえた」など、人と一緒に活動して、相手から受け入れられ、認められるという経験が大切です。そのような経験から人や自分に対しての感情が豊かになります。



<ポイント>

社会性を教えていく上で大切な事は、自分の目の前にいる人が、心地よく感じ、自分としても、心地よく感じる事ができる振る舞いができているかということです。つまり、社会性を身に付けさせるためには、集団の中、友達がいる場（他の子どもの評価が得られる場）が必要といえます。

社会性の不足は、将来、心理面で問題を招くことにもなりかねません。しかも、心理的問題は、成人になるほど修正しにくくなります。小集団での遊びなどを通して、早い段階から社会性を教えていくことが大切です。